

インドネシアのパーム産業での燃料化に関するシンポジウム（ご案内）

株式会社エコ・サポート

東大阪はモノづくりのメッカ、起業家精神が企業の大きな集積があります。2003年に日本技術士会近畿本部主催の技術士全国大会で、東大阪の多くの企業のご支援を得て、成果をあげました。6月26日（金）にシンポジウムを開催します。ホームページを使って毎日新たな情報発信をして参加者を定員に達するまで募集します。

テーマ インドネシアの膨大な再生エネルギー資源を日本と共同で開発利用
2045年、2050年以降のゴールへの実現のプログラム

日時 2020年6月26日（金）13:30～16:30

場所 東大阪商工会議所大会議室 募集定員 100名

主催者 (株)エコ・サポート（東大阪商工会議所会員、研究開発型コンサル・シンクタンク）
スケジュール案

13:30 開会 主催者挨拶：(株)エコ・サポート取締役会長 技術士〈建設他3部門〉 安カ川常孝
スティグリッツ教授（ノーベル経済学賞受賞）の「成長する社会」の実践
ご挨拶：インドネシア総領事館
アリフィン・タスリフ エネルギー・鉱物資源大臣のメッセージ紹介
大臣は昨年10月まで在日本インドネシア共和国大使。日本との連携を強く期待

14:00～ 基調講演：神前進一氏 パーム産業の現状、課題と将来
大阪外大・大阪大学での人材育成とともに、人文地理学、農村開発論を現地で実践。
ボルネオ島での30年間50回の研究活動を通じてパーム産業の課題と可能性を紹介。
「菜の花プロジェクトみのお」を主宰して農業の実践活動中。

休憩

14:45～ パネリストの発表とパネルディスカッション
コーディネーター：神前進一氏（前述）

野邑奉弘氏 大阪市立大学名誉教授 工学博士（エネルギー、熱工学）

パーム農園の農業資源の燃料化：上流から下流までの国際商品システム

インドネシアは温暖化対策を推進とともに2045年GDP世界第5位を目指す

安カ川常孝氏（前述）

自立型で地域分散型電力製造供給システムでい経済的で柔軟な電力ネットワーク構築

深田晃二氏 技術士（衛生工学）技術士会衛生工学部会長 元京都女子大非常勤講師

高効率なS-GTCC（Sustainable Gas Turbine Combined Cycle）発電システム

日本で実用化されたシステムをインドネシアの700ヶ所のパーム農園で普及させる

山本泰三 (株)エコ・サポート代表取締役（2000年～） 技術士（環境、総合）

ガス小型湯沸器の燃焼特性と新型コロナウイルスの爆発的発生との類似性の一考察

1970年代に実証評価した燃焼科学・化学・工学の視点で出口戦略を考察する。

16:30～ 閉会挨拶

17:00～ 懇親会（最大70名） 参加費：2000円

) 『エコサポート通信』から。 <https://www.eco-support.co.jp/>

⇒ 『エコサポート通信』でHPに入ったら左欄、目次の『トップページ』をクリック。

シンポジウム案内の最下段に下記の案内、通信用アドレスでお申込み下さい。

参加費：2000円 8月初旬にA4で100ページの報告書を郵送します。

・申込用メールに氏名、所属（参加者名併記）でご記入下さい。 dfaqv509@kcc.zaq.ne.jp

・毎日、関連情報を発信し、定員になり次第、表示・広告します。 ■